神童寺：重要文化財

神童寺本堂の裏にある収蔵庫には、平安時代（794－1185）の仏像が数点あります。国の重要文化財に指定されている仏像をいくつかを紹介します。

愛染明王坐像

「愛染明王」は、世俗的な欲望を精神的な悟りに変える仏様として広く知られています。愛染明王は、多くが様々の真紅で描かれ、愛にまつわる仏様とされています。恋愛の仏様として、弓と矢を携えていることも多くあります。神童寺の「愛染明王坐像」は、「天弓愛染」と呼ばれています。とても珍しいもので、天に向かって矢を射る姿をしています。このような姿の重要文化財の愛染明王は日本に４体しかありません。高さが64.5cmあり木造です。

不動明王立像

不動明王は、信者を守り激しく慈悲深い愛を持って導く「明王」です。神童寺の像は、「波切白不動尊」と呼ばれ、子どものような姿をしており、波立つような服装と螺髪で小さな牙が見られます。このような像は日本に４体しかありません。その中でも、白色はとても珍しくこの一体のみです。高さは162.1cmあり木造です。

阿弥陀如来坐像

西方極楽浄土の阿弥陀如来は、死者を極楽浄土へ導く仏様です。ここの阿弥陀如来は、高さが137cmあり木造です。また、世界遺産である平等院にある阿弥陀如来像を真似て造られたと考えられています。

「日光・月光菩薩立像」

 この２つの仏像は、日光と月光を表す菩薩像です。通常、病を癒してくれる仏様、薬師如来の脇侍としての仏様ですが、神童寺の菩薩像は、現在移されて二像だけがここにあります。通常、日光菩薩が左手、月光菩薩が右手を上げているのですが、ここでは2体とも左手を上げています。